

令和4年度第6回「知事と一緒に生き生きトーク」発言要旨

- 1 テーマ 岡山で働く仲間を増やそう！
～関西から見た岡山県で働く魅力とは～
- 2 日時 令和4年11月30日（水）14:10～15:30
- 3 場所 大阪新阪急ホテル（大阪市北区芝田一丁目1番35号）
- 4 参加者 来春に岡山県内にUターン就職予定の方、岡山県との就職支援協定締結大学の就職支援担当者など、関西に在住あるいは在住経験のある方6名

5 知事挨拶

- ・生き生きトークは11年目になるが、初めての県外開催。
- ・関西には本県出身者が多く進学しているが、我々が望むほどはUターン就職していない。どうすれば、学生自身が納得した上で岡山に戻ってきていただけるのか、率直なご意見を頂戴したい。

6 発言内容等

【自己紹介や活動】

- ・厚生労働省の地方人材還流促進事業（以下「Lo活」という。）の事業監督者。東京以外の46道府県の自治体や関西圏・東京圏の大学200校と連携し、学生が最良の選択で地方に就職できるよう取り組んでいる。
- ・京都産業大学（京都府）の就職支援担当。学生数は約15,000人で、ひとつのキャンパスに10学部を擁する。岡山県出身者は例年100名程度で、関西以外で最多。岡山県とは、平成28年に就職支援協定を締結。
- ・桃山学院大学（大阪府）の就職支援担当。学生数は約6,600人、文系学部を揃える総合大学。岡山県出身者は例年15人程度だが、関西以外で最多。岡山県とは、平成30年に就職支援協定を締結。
- ・おかやま就活サポーターとして活動中。倉敷市出身。兵庫県内の大学を卒業し、Uターン就職した。
- ・京都産業大学4年生。倉敷市出身。来春、Uターン就職予定。
- ・流通科学大学（兵庫県）4年生。鏡野町出身。来春、Uターン就職予定。

【現状に思うことや自身の経験】

- ・地方回帰が強まっているとの報道もあるが、今夏、Lo活が実施した調査ではさほど変化はなかった。Uターン希望は約3割、その内訳がUターン7割、Iターン1割、Jターン2割というのがオーソドックス。
- ・学生は、交通費などのコスパ（コストパフォーマンス）に加え、いかに効率的に有益な情報を得るかのタイパ（タイムパフォーマンス）も重視。コロナ禍で友達や先輩と会えず、自分ひとりで情報収集をせざるを得ないことも影響か。
- ・大学1・2年生のインターンシップ参加に取り組む自治体や大学も増加

- しており、さらには高校のキャリア教育を重視する自治体もある。もっと早い段階で、子どものときに郷土愛を醸成することも重要だ。
- ・ 高校生の教育も鍵だ。地方の高校生は、懇切丁寧な進路指導を受けているが、大学生になって自分自身で考えるよう求められても対応できない状態につながっている。
 - ・ 就職関連イベントにしても最近の学生はオンラインが普通で、対面を知らないが、対面の良さを押し付けてはいけない。学生の気質・考え方・行動も変化している。学生個人の目線に立った支援が必要。
 - ・ 学生は、就職後の生活をイメージできていない。就職先だけでなく、どのような人生を送るかという紹介が必要。人生の彩り、ページの作り方を一緒に考えてほしい。
 - ・ 都会は選択肢とモノが多いが、モノはどこでも入手できる時代である。今後は、コト＝体験が重要。若い時と、家庭を持った 30 代・40 代とでは魅力と感ずることが変わる。
 - ・ 岡山にUターン就職するメリットは、車を運転しやすいので行動範囲が広がり、オンオフが切り替えやすいこと。家族や友人の支えも大きい。不便な点は、車がないと働きにくいことや、テレワークなど柔軟な働き方が浸透するスピードが遅いことだ。
 - ・ 当初から岡山県内の就職を考えていたが、県内企業だけでなく、全国規模の企業も検討した。その上で、岡山だからチャンスが少ないわけではない、自分のモチベーション次第だとわかり、それなら岡山大で力を試そうと思い、Uターン就職を決断した。
 - ・ 当初は兵庫県内の就職を考えていたが、就職活動を始めると、自分が安心して働けるのは岡山だと思うようになった。家族・友人の存在、慣れ親しんだ土地の安心感は大きい。都会は遊びに行くところ、働くのは岡山、という将来ビジョンが考えやすかった。

【効果的な取組などの提案】

- ・ Lo 活は、就職後 29 歳頃までの若者からの相談にも対応している。各県にも気軽に相談できる存在や窓口があるとよいし、県単位でデータベース化できると理想的。
- ・ 保護者との連携強化に取り組む自治体や大学も多い。保護者はコロナ禍の就活は学生に不利と心配するが、企業は学生優位と捉えており、認識が異なる。保護者に的確に情報を伝えられるよう、大学・保護者・県との連携ができるとよい。
- ・ 大学もUターン就職を支援している。北陸 3 県の合同イベントが好評だったので、岡山県も近隣他県と連携してほしい。
- ・ 中四国合同で開催すると、学生の視野が広がると思う。また、大学の OB・OG が参加するとより親しみやすいので、学校別のイベントも効果的ではないか。
- ・ 学生には、メール、SNS、ナビサイト等から様々な情報が届くが、多すぎ

て整理できていない。メールよりもハガキが効果的なこともあり、特に保護者に有効。

- ・Uターン就職の課題は、学生が企業を知らないこと。最近知ったが、県が制作している冊子で、主な県内企業 600 社を業種別にまとめた「おこやま業界地図」が便利。高校卒業時や保護者に配付してはどうか。
- ・情報の取捨選択、効率のよい収集方法を早く知りたかった。毎日 20 件以上のメールが来るし、ナビサイトの独自情報を見ていると、何がなんだかわからなくなる。情報が多い故の不安がある。
- ・大学のキャリアセンターには、大学所在地の企業の情報はあるが、県外の情報は少ない。Uターン就職の難しさを感じていた時、おこやま就職応援センター（県運営の無料職業紹介所）のコーディネーターに出会い、企業情報を得ることができた。
- ・合同企業説明会は質問時間が少なく、表面的なことしか教えてもらえなかった。会社主催の説明会では、ホームページの補足説明に終わった会社もあった。入社後の具体的なサポートなど、自分が納得できる情報が欲しかった。

【知事まとめ】

- ・全国的に 3 年以内離職率が 3 割を超えているが、その際の転職は、自身の希望通りになっていない現実がある。新卒時のミスマッチ防止も重要だが、転職時に県内企業とよいマッチングができればとも思う。
- ・就職は、最後は本人の決断。後悔のないようにしていただき、結果的に地元就職につながればありがたい
- ・日頃から、本県の I J U ターン就職施策にご理解・ご協力をいただいている上、本日は様々なヒントも頂戴した。重ねて感謝申し上げます。